

●行政視察（福岡県久留米市・福岡県三潞郡大木町） 浅沼 碧海

5月18日（月）～5月20日（水）

1 研修先

福岡県久留米市議会

おおき循環センターくるるん

2 研修目的

議会 BCP について

3 成果（具体的に）

〈久留米市の概要、議会 BCP 策定の経緯〉

今回の研修視察先である福岡県久留米市は、人口 299,539 人（令和 7 年 4 月 1 日現在）・面積は 229,96 km<sup>2</sup>、議員定数は 36 名の市である。今回視察先を久留米市にさせていただいたのは、毎年のように観測記録を更新するほどの大雨が続き、大規模な浸水被害や土砂災害が発生するため、議会 BCP を策定し実施している事例を研修させていただいた。

＜成果＞

今回私たちは台風 22 号・23 号を経験し、身をもって台風を含めた災害への対応・対策の必要性を実感している。

久留米市においては、度重なる豪雨、台風災害に加え、議会 BCP を策定の最中に「新型コロナウイルス感染症」により、緊急事態宣言の発令もあった。普段の監査はもちろんだが、緊急時こそ住んでいる町を守るため、懸命に動くのも議員の一つの役目だと認識している。

5 月の講演会でも耳にし、今回の久留米市のお話を聞く中でも

- ・迅速な意思決定のサポート
- ・執行部の衝動体制や応急対応に専念できるように配慮すること
- ・地域の災害情報の収集、情報提供

は当たり前にも思うが、改めて議会として行える行動の一つであると実感した。

住民の皆様からも台風時、議会・議員はなにをしていたのか。といったお声は多々いただいた。八丈町議会としても、今回議会等の集まりを開催しなかったり、町職員への配慮ある行動は結果としては、間違っていないかではないかと考えさせられる。しかし要望活動等、議会、議員として何ができたのか、また今後議会 BCP を策定に向けて動き、どのような町へのサポート、住民の皆様のお役に立てるかは検討していきたい。

議会 BCP を策定し、議会の動きを住民の皆様にも見ていただくことも大切な役割の一つでもあると思うので、個別の行動を除き、仕組みを作り、町の対応へのサポートを行っていきたい。

久留米市は豪雨災害等が常に身近にあり、議会 BCP も策定して終わりではなく、常に実施されている現場の緊張感のあるお話を伺えたことは大変参考になった。また話を伺う中でマニュアルの見直しも定期的に行われており、活発な意見が出され、柔軟な対応を行なっていることも現代

的である。策定したら終わりではなく、策定し実践して、改善点を見つけ、さらにはご時世にも対応できる柔軟な議会でありたい。

また久留米市では、議員からの災害の情報提供及び共有ツール「久留米市防災チャットボット」の運用を開始した。

専用のLINE アカウントを活用し、被害情報を投稿・共有するシステムである。メリットとしては市内の被害状況を地図上に表示し、利用者間で共有できる。LINE を使い、その場で簡単に被害情報を投稿できる。デメリットとしては投稿時点の情報のため現地と状況が異なっていることがあることや、現場での対応（救助要請）を確約するものではないとされる。

現代の連絡ツールにおいて、LINE は多くの人が利用するサービスの一つである。私が住む末吉地域も、地域としての情報共有の必要性を感じ、LINE グループを作成し、皆で共有を行なっている。八丈町としても、通信の切断や防災無線の役割など、情報の伝達については今後より届けられるシステムを作成していかなければならないので、とても参考になる事例の一つである。

#### <まとめ>

今回、久留米市役所・議会の皆様にお話を聞かせていただき、非常に参考になったのは、災害が頻繁に起き、常に向き合っている地域であることである。私たち八丈島も台風は当たり前のようにつき合ってきたものが、今回の台風で考え方を見直させられたように感じている。しかしまた何十年後かの強い台風だときっと慣れが生まれてしまう。常に危機感や柔軟な対応ができるよう、防災訓練や議会BCPの策定に向けてなど、常に災害やゆゆしき事態に備え向き合っていく必要性を感じさせられた。また議会BCPを策定しての議会や議員の災害時の行動等のお話も伺えたので、私たち自身の議会・議員の動きを振り返り、今後の参考にしていきたい。